

スポーツ・健康科学専攻

Sports and Health Sciences

修士課程

教育研究上の目的

スポーツ・健康科学研究科スポーツ・健康科学専攻修士課程は、スポーツ科学分野と健康科学分野を配置し、スポーツや身体活動及び健康や医療に関する分野横断的、学際的な教育研究を行うことで、幅広い視野と高度な知識・技能をもった専修免許を有する教員、各分野の専門的指導者及び職業人を輩出することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

スポーツ・健康科学研究科スポーツ・健康科学専攻修士課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、修士論文が審査のうえ合格と認められた学生に修士(スポーツ科学・健康科学)の学位を授与する。

- 1 専攻分野(スポーツ科学分野、健康科学分野)の幅広い知識と高度な理論を理解し職業人としての専門的知識と実践的技能を修得し、その分野を切り開いていく学際的な能力を有している。
- 2 異なる分野の専門的知識・技術を横断的に深化させ、総合的視野と専門的洞察力を備えた指導者および職業人としての的確に表現することができる。
- 3 スポーツおよび健康・医療の関連分野において専門的指導者および職業人として、多様な文化や立場を理解し、積極的に社会貢献することができる。

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

スポーツ・健康科学研究科スポーツ・健康科学専攻修士課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

- 1 教育内容
 - ① スポーツ科学分野と健康科学分野から専門分野を選択し、その分野の関連科目(特論と演習)を中心に学ぶ。
- 2 教育方法
 - ① 特論、演習、及び特別研究等の少人数科目を利用し、インタラクティブな教育を実施する。
- 3 評価方法
 - ① 学位授与の方針で掲げられた能力の評価として、スポーツ・健康科学研究科における単位取得状況、特別研究受講状況、学位論文等の結果によって測定するものとする。

アドミッション・ポリシー (入学受入れの方針)

スポーツ・健康科学研究科スポーツ・健康科学専攻修士課程は、教育研究上の目的とディプロマ・ポリシー(学位授与方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施方針)に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

- 1
 - ① スポーツ科学・健康科学を学ぶのに幅広い十分な基礎学力および知識を有している。
- 2
 - ① スポーツ活動に対して主体的に行動し心身を適応させ、健康や医療に関する諸問題に対的確に判断することができる。
- 3
 - ① スポーツや医療・健康増進活動を通して、健康の維持・増進に強い関心を持ち、広い視点から高度な専門的知識および技能を意欲的に身につけることができる。

Curriculum 2022年度 カリキュラム																					
■ 共通科目	・ スポーツ・健康科学研究法 ・ 科学英語																				
■ スポーツ科学分野	<table border="0"> <tr> <td>・ 健康生理学特論</td> <td>・ パフォーマンス・アナリシス特論</td> </tr> <tr> <td>・ 健康生理学演習</td> <td>・ パフォーマンス・アナリシス演習</td> </tr> <tr> <td>・ スポーツ生理学特論</td> <td>・ ヘルスプロモーション特論</td> </tr> <tr> <td>・ スポーツ生理学演習</td> <td>・ ヘルスプロモーション演習</td> </tr> <tr> <td>・ スポーツバイオメカニクス特論</td> <td>・ スポーツ社会学特論</td> </tr> <tr> <td>・ スポーツバイオメカニクス演習</td> <td>・ スポーツ社会学演習</td> </tr> <tr> <td>・ スポーツ心理学特論</td> <td>・ スポーツ科学研究セミナーA</td> </tr> <tr> <td>・ スポーツ心理学演習</td> <td>・ スポーツ科学研究セミナーB</td> </tr> <tr> <td>・ 運動制御・運動学習特論</td> <td>・ スポーツ科学特別研究A</td> </tr> <tr> <td>・ 運動制御・運動学習演習</td> <td>・ スポーツ科学特別研究B</td> </tr> </table>	・ 健康生理学特論	・ パフォーマンス・アナリシス特論	・ 健康生理学演習	・ パフォーマンス・アナリシス演習	・ スポーツ生理学特論	・ ヘルスプロモーション特論	・ スポーツ生理学演習	・ ヘルスプロモーション演習	・ スポーツバイオメカニクス特論	・ スポーツ社会学特論	・ スポーツバイオメカニクス演習	・ スポーツ社会学演習	・ スポーツ心理学特論	・ スポーツ科学研究セミナーA	・ スポーツ心理学演習	・ スポーツ科学研究セミナーB	・ 運動制御・運動学習特論	・ スポーツ科学特別研究A	・ 運動制御・運動学習演習	・ スポーツ科学特別研究B
・ 健康生理学特論	・ パフォーマンス・アナリシス特論																				
・ 健康生理学演習	・ パフォーマンス・アナリシス演習																				
・ スポーツ生理学特論	・ ヘルスプロモーション特論																				
・ スポーツ生理学演習	・ ヘルスプロモーション演習																				
・ スポーツバイオメカニクス特論	・ スポーツ社会学特論																				
・ スポーツバイオメカニクス演習	・ スポーツ社会学演習																				
・ スポーツ心理学特論	・ スポーツ科学研究セミナーA																				
・ スポーツ心理学演習	・ スポーツ科学研究セミナーB																				
・ 運動制御・運動学習特論	・ スポーツ科学特別研究A																				
・ 運動制御・運動学習演習	・ スポーツ科学特別研究B																				
■ 健康科学分野	<table border="0"> <tr> <td>・ 細胞生物学特論</td> <td>・ 分子生命科学特論</td> <td>・ 健康医科学特別研究A</td> </tr> <tr> <td>・ 細胞生物学演習</td> <td>・ 分子生命科学演習</td> <td>・ 健康医科学特別研究B</td> </tr> <tr> <td>・ 健康医学特論</td> <td>・ 生体情報解析学特論</td> <td>・ 老年学特論</td> </tr> <tr> <td>・ 健康医学演習</td> <td>・ 生体情報解析学演習</td> <td>・ 老年学演習</td> </tr> <tr> <td>・ 予防医学特論</td> <td>・ 栄養生理学特論</td> <td>・ ウィメンズヘルス学特論</td> </tr> <tr> <td>・ 予防医学演習</td> <td>・ 栄養生理学演習</td> <td>・ ウィメンズヘルス学演習</td> </tr> </table>	・ 細胞生物学特論	・ 分子生命科学特論	・ 健康医科学特別研究A	・ 細胞生物学演習	・ 分子生命科学演習	・ 健康医科学特別研究B	・ 健康医学特論	・ 生体情報解析学特論	・ 老年学特論	・ 健康医学演習	・ 生体情報解析学演習	・ 老年学演習	・ 予防医学特論	・ 栄養生理学特論	・ ウィメンズヘルス学特論	・ 予防医学演習	・ 栄養生理学演習	・ ウィメンズヘルス学演習		
・ 細胞生物学特論	・ 分子生命科学特論	・ 健康医科学特別研究A																			
・ 細胞生物学演習	・ 分子生命科学演習	・ 健康医科学特別研究B																			
・ 健康医学特論	・ 生体情報解析学特論	・ 老年学特論																			
・ 健康医学演習	・ 生体情報解析学演習	・ 老年学演習																			
・ 予防医学特論	・ 栄養生理学特論	・ ウィメンズヘルス学特論																			
・ 予防医学演習	・ 栄養生理学演習	・ ウィメンズヘルス学演習																			

研究活動により社会貢献できる人間を目指して大学院を選択

私がスポーツ・健康科学研究科へ進学したいと思ったきっかけは、学部生時代に所属したゼミの卒業研究で先天性血液凝固疾患の血友病をテーマとして研究したことです。そのゼミ活動を通して、私は各種の実験法の原理や原則を知り学ぶことについての面白さや様々な実験結果から新たな知見を見出すことの楽しさを実感し、自身のその気持ちややがて、より専門的な知識や高度な技術、実験のノウハウなどより多くのものを身につけ、いつの日か自らの発想でヒトの病気や健康維持に役立つ発見や技術開発ができるようになりたいと思うようになり大学院進学を決めました。修士課程修了後については、学部生時代に取得した臨床検査技師国家資格とこの修士課程で学んだ知識や考え方を活かして、臨床の現場である病院や研究機関等に勤務すること、或いは、さらに博士課程に進学することを考えていますが、いずれにしても研究活動を続けながら少しでも社会に貢献できる人間となるためにも、この2年間は研究活動に没頭したいと思っています。日々進化発展する理論や技術について、知らないことや疑問に思ったことを調べたり、先行研究の論文を読んだり、指導してくれる先生方とディスカッションすることが、今や自身の予想をはるかに超えるほど面白く感じています。大学卒業後も学びたい、実験や研究に興味がある、より専門的な勉強がしたいという人は、ぜひ大学院進学を選択肢の一つとするのも良いと思います。

Student Voice

スポーツ・健康科学専攻
修士課程2年

杉山 誠さん

大東文化大学
スポーツ・健康科学部卒

スポーツ・健康科学専攻 専任教員

勝又 宏 KATSUMATA Hiromu	Ph.D. in Kinesiology 研究科委員長・教授
研究分野 運動制御・運動学習科学	
<ul style="list-style-type: none"> ● 最終学歴: The Pennsylvania State University 大学院 ● 担当授業科目: 運動制御・運動学習特論/演習、スポーツ科学研究セミナーA/B、スポーツ科学特別研究A/B ● 研究テーマ: 「知覚-動作連関のメカニズムと認知的情報処理機能の関与、打撃/投球動作の制御メカニズム」 ● 主な著書・論文: 著書: ニューロリハビリテーション、第2章、pp.46-57、(2015.医学書院)、主な論文: Human Mov.Sci.67 (2019) Journal of Sports Sciences,6 (2017)、Journal of Motor Behavior, 46(2) (2015); Experimental Brain Research, 216(4) (2012); Clinical Neurophysiology,120(2009); 	

蕪木 智子 KABURAGI Tomoko	博士(学術) 教授
研究分野 栄養学、栄養生理学	
<ul style="list-style-type: none"> ● 最終学歴: 日本女子大学大学院 ● 担当授業科目: 栄養生理学特論/演習、スポーツ・健康科学研究法 ● 研究テーマ: 栄養成分と生体内代謝の解析、肥満の分子機構の解析 ● 主な著書・論文: 「健康づくりの栄養学」(2021.建邦社)、Low-carbohydrate diet inhibits different advanced glycation end products in kidney depending on lipid composition but causes adverse morphological changes in a non-obese model mice, Nutrients 11; 2801(2019)、The Inhibitory Role of α2,6-Sialylation in Adipogenesis, J Biol Chem 292; 2278 (2017) 	

後藤 孝也 GOTOH Takaya	博士(医学) 教授
研究分野 細胞生理、細胞内情報伝達、がん細胞学	
<ul style="list-style-type: none"> ● 最終学歴: 香川医科大学 医学研究科博士課程 ● 研究テーマ: 低分子量G蛋白質、細胞内情報伝達機構の解明、発がん機構、悪性転化機構の解明 ● 主な著書・論文: 1. PKCδ deficiency inhibits fetal development and is associated with heart elastic fiber hyperplasia and lung inflammation in adult PKCδ knockout mice. Niino YS, Kawashimal et. al. and Gotoh T, PLoS One. 2021 Jul 1;16(7):e0253912 2. Glycosylation is a novel TGFβ1-independent post-translational modification of Smad2. Gotoh T, Iwahana H, et. al. Biochem Biophys Res Commun. 2020 Jan 22;521(4):1010-1016 	

高山 成伸 TAKAYAMA Shigenobu	博士(医学) 教授
研究分野 臨床検査学、感染免疫学、血液学	
<ul style="list-style-type: none"> ● 最終学歴: 東邦大学医学部大学院 ● 担当授業科目: 分子生命科学特論/演習、スポーツ・健康科学研究法、健康医科学特別研究A/B ● 研究テーマ: 新たな臨床検査法の研究開発、血友病インヒビター ● 主な著書・論文: 免疫検査学(2019) 臨床検査臨床実習マニュアル(2017)等 	

日野 るみ HINO Rumi	博士(医学) 教授
研究分野 病理学	
<ul style="list-style-type: none"> ● 最終学歴: 東京大学大学院医学系研究科 ● 担当授業科目: 生体情報解析学特論/演習、スポーツ・健康科学研究法 ● 研究テーマ: 甲状腺腫瘍の病理学形態学的アプローチ、蛍光プローブを用いた甲状腺癌検査法の探索 ● 主な著書・論文: 1)Hino R, Inoshita N, Kamiya M, Urano Y, et al. Rapid detection of papillary thyroid carcinoma by fluorescence imaging using a γ-glutamyltranspeptidase-specific probe: a pilot study. Thyroid Res. 2018. 2)Hino R, Motoi N, Ishikawa Y, et al. Stromal tiny black dots, like "sugar-coated", of von Kossa stain is a diagnostic clue to hyalinizing trabecular tumor of the thyroid gland. Pathol Int. 2018. 	

宮城 修 MIYAGI Osamu	博士(体育学) 教授
研究分野 スポーツ生理学	
<ul style="list-style-type: none"> ● 最終学歴: 中京大学大学院 ● 担当授業科目: スポーツ生理学特論/演習、スポーツ・健康科学研究法、スポーツ科学研究セミナーA/B、スポーツ科学特別研究A/B ● 研究テーマ: スポーツ活動中の生理学的応答、身体組成とウエイトコントロール ● 主な著書・論文: 『運動とスポーツの生理学』(共著:2020,市村出版)、『スポーツコーチのためのトレーニング生理学』(監訳:2020,大修館書店)、『サッカーのコンディショニング』(共著:2010,大修館書店) 	

藤田 和博 FUJITA Kazuhiro	博士(医学) 専攻主任・教授
研究分野 血液学、ゲノム医学	
<ul style="list-style-type: none"> ● 最終学歴: 東京理科大学/昭和大学医学研究科 ● 担当授業科目: 生体情報解析学特論/演習、スポーツ・健康科学研究法、健康医科学特別研究A/B ● 研究テーマ: 血液関連検査の検討と新規開発/染色体・遺伝子解析技術の応用/生殖補助医療技術 ● 主な著書・論文: Molecular cloning of t(2;7)(p24.3;p14.2), a novel chromosomal translocation in myelodysplastic syndrome-derived acute myeloid leukemia / Cytogenetics, FISH and RT-PCR analysis of acute promyelocytic leukemia: structure of the fusion point in a case lacking classic t(15;17) translocation. 	

川本 竜史 KAWAMOTO Ryuji	博士(学術) 教授
研究分野 スポーツバイオメカニクス	
<ul style="list-style-type: none"> ● 最終学歴: 東京大学大学院 ● 担当授業科目: スポーツバイオメカニクス特論/演習、スポーツ・健康科学 研究法、スポーツ科学研究セミナーA/B、スポーツ科学特別研究A/B ● 研究テーマ: サッカーを中心とした各種スポーツ競技に関する動作解析研究 ● 主な著書・論文: 『SPSSとExcelによる「統計力」トレーニングスポーツデータで分析力を身につける』(単著:2004.東京図書株式会社)、『サッカーにおけるフェイント動作のすばやさに関するバイオメカニクスの研究』(共著:2011.バイオメカニクス研究14,138-146) 	

杉森 裕樹 SUGIMORI Hiroki	博士(医学)、修士(臨床疫学) 教授
研究分野 予防医学・疫学・公衆衛生学	
<ul style="list-style-type: none"> ● 最終学歴: 北海道大学、臺灣 Newcastle University院 ● 担当授業科目: 予防医学特論/演習、スポーツ・健康科学研究法、健康医科学特別研究A/B ● 研究テーマ: 厚生労働科学研究「患者及び医療関係者との医薬品等安全対策情報のリスクコミュニケーションに関する研究」班 研究代表者(平成26-27年度)、厚生労働科学研究「新しい生活様式における適切な健診実施と受診に向けた研究」班 研究代表者(令和3年度〜)他 ● 主な著書・論文: 読んでわかる! 疫学入門(大修館書店)、臨床研究マスターへの道 医科統計学が身につくテキスト(MEDSi社)、【新装版】医学探偵ジョン・スノウ・コレラとブロード・ストリートの井戸の謎(大修館書店) 	

田中 博史 TANAKA Hiroshi	博士(医学) 教授
研究分野 スポーツ心理学・コーチング科学(バレーボール)	
<ul style="list-style-type: none"> ● 最終学歴: 順天堂大学大学院 ● 担当授業科目: スポーツ心理学特論/演習、スポーツ・健康科学研究法、スポーツ科学研究セミナーA/B ● 研究テーマ: スポーツ選手の心身におけるコンディション、高齢者における健康・スポーツ・心理に関する研究 ● 主な著書・論文: 著書: バレーボールコーチ教本(メンタル・トレーニング担当)、コーチングバレーボール(発育発達の基本:心理面担当) 主な論文: バレーボール選手におけるコンディショニングツールとしての酸素カプセルの有用性に関する検討(共著:2013, バレーボール研究15, 23-27)、日本人高齢者の社会参加と身体的虚弱との関連:国民健康・栄養調査を用いた横断研究(共著:2018, 東医大誌 76, 47-56) 	

水野 千奈津 MIZUNO Chinatsu	博士(工学)、修士(看護学) 教授
研究分野 ウィメンズヘルス学	
<ul style="list-style-type: none"> ● 最終学歴: 東京理科大学大学院 ● 担当授業科目: ウィメンズヘルス学特論、ウィメンズヘルス学演習 ● 研究テーマ: 働く女性の健康、ジェンダーに基づくアンコンシャスバイアスに関する分析手法、日本と欧州におけるひとり親家庭支援に関する施策比較 ● 主な著書・論文: Study on the Pregnant Women's Walking-Focusing on the Distance from the Toe to the Floor Face-Women's Health Society Journal of Japan,7(1),pp.99-106, 2015 Relationship between work-life balance and QOL in overworking Japanese pregnant women, New Perspective Ergonomics, pp.161-165,2015 	

宮本 正秀 MIYAMOTO Masahide	修士(文学) 教授
研究分野 イギリス文学、ヨーロッパ文化史	
<ul style="list-style-type: none"> ● 最終学歴: 金沢大学大学院 ● 担当授業科目: 科学英語 ● 研究テーマ: 初期近代英国における自然科学 ● 主な著書・論文: 『遺棄な言葉による自然研究』(2010)、『医師と看取る人の文学』(2014)、『Anatomical Theatreと近代初期劇』(2014)、『死めための技法』と死者の魂について』(2016) 	

スポーツ・健康科学専攻 専任教員

森 浩寿
MORI Hirohisa

教育学修士
教授

研究分野 スポーツ法学、スポーツ政策学

- 最終学歴：日本大学大学院
- 担当授業科目：スポーツ社会学特論/演習、スポーツ・健康科学研究法、スポーツ科学研究セミナー A/B
- 研究テーマ：スポーツを巡る法律問題の研究、スポーツ政策に関する研究、スポーツにおけるリスクマネジメントの研究
- 主な著書・論文：運動部活動の法的根拠～学校教育法とスポーツ基本法の関係、体育の科学、2007年1月号代表選手選考、懲戒処分をめぐるスポーツ権、『標準テキストスポーツ法学』、エイデル研究所、2016スポーツマネジメントに必要な法知識、『スポーツマネジメント(改訂版)』、大修館書店、2015体育・スポーツ事故と体育教師の法的責任、体育科教育2015年6月号スポーツを巡る体罰と法的課題、みんなのスポーツ、2014年6月号

本間 俊行
HOMMA Toshiyuki

博士(医学)
准教授

研究分野 運動生理学、競技パフォーマンス分析

- 最終学歴：東京医科大学大学院
- 担当授業科目：パフォーマンス・アナリシス特論/演習、スポーツ・健康科学研究法、スポーツ科学研究セミナー A/B
- 研究テーマ：運動時のエネルギー代謝、トレーニングに対するエネルギー供給能力の適応、競技パフォーマンス分析
- 主な著書・論文：(1) Once-weekly muscle endurance and strength training prevents deterioration of muscle oxidative function and attenuates the degree of strength decline during 3-week forearm immobilization. Eur J Appl Physiol (2015) (2) Effects of acute hypoxia on metabolic and hormonal responses to resistance exercise. Med Sci Sports Exerc. (2010) (3) Low-volume muscle endurance training prevents decrease in muscle oxidative and endurance function during 21-day forearm immobilization. Acta Physiol. (2009)

森田 恵子
MORITA Keiko

博士(老年学)
教授

研究分野 老年看護学

- 最終学歴：桜美林大学大学院老年学研究科
- 担当授業科目：老年科学特論、老年科学演習
- 研究テーマ：加齢性難聴に対するケアと聴覚補償支援
- 主な著書・論文：(著書) 生理学実習NAVI (共著：2017, 医歯薬出版)、(著書) 最新老年心理学 (共著：2018, ワールドプランニング)、(論文) 『高齢難聴患者が看護師に期待するコミュニケーション-KJ法による正常聴力者との対比』(共著：2017, 日本老年看護学22(1) p41-50)

築瀬 澄乃
YANASE Sumino

博士(医学)、修士(理学)
准教授

研究分野 放射線・化学物質影響科学、基礎老化学、分子生物学

- 最終学歴：横浜市立大学大学院
- 担当授業科目：分子生命科学特論/演習、スポーツ・健康科学研究法、健康医科学特別研究 A/B
- 研究テーマ：モデル生物線虫を用いた生物の老化機構の解明
- 主な著書・論文：線虫ラボマニュアル(三谷昌平編) 第II部応用編 3. 老化解析 (共著：2003, シュプリンガー・フェアラーク東京)、放射線生物研究 53:225-264 (2018)、Journal of Visualized Experiments e57807:1-6 (2018)、Biochemistry and Biophysics Reports;23,1-6(2020)

